

ロンドン自転車展 (Cycle Show) 参観及び同市内自転車店調査報告

ロンドン自転車展 (Cycle Show) がロンドン中心部の Earls Court にて開催された。前回 2007 年調査時にも同展示会を訪問・調査したが、今回、同展示会の内容は更に充実していた。またこれに併せて同市内の自転車小売店の調査も行ったので報告する。

1. ロンドン自転車展 (Cycle Show)

【Cycle Show 2010】

主催： Upper Streets Events

会場： Earls Court

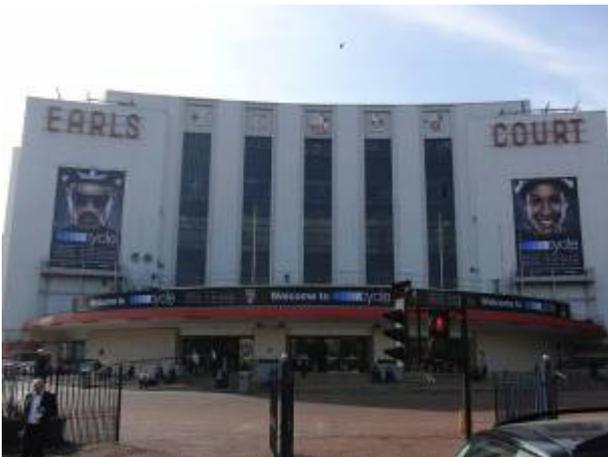
会期： ビジネスデー； 2010 年 10 月 7 日(木) 10:00~19:00

一般公開： 2010 年 10 月 8 日(金)~10 日(日) 10:00~18:00 (10 日 17 時終了)

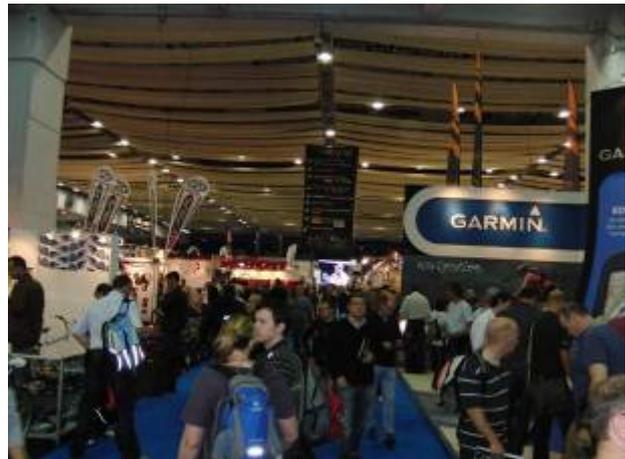
展示面積： 23,000 m²

入場者数： 現在未公表 (主催者推計 25,000 名)

出展社数： 186 社 380 ブランド (展示会ガイドより集計)



Earls Court



ホール内の様子

(1) 展示会概要

主な出展ブランドでは、プジョー、ビアンキを要するサイクルヨーロッパ、米国のスペシャライズドが大きなブースを構え、他にはマリン、ジャイアント、FELT、ピナレロ、コルナゴ、デ・ローザ、LOOK 及びエディメルクス等も見られた。部品の出展はカンパニョーロ、スラム、BBB 及び FSA 等、付属品出展も多く見られ、出展規模は小さいが一通り揃っていた。その他、最近レンタサイクル運用を開始したロンドン市等の各種団体、更には MTB やシティ車、電動アシスト自転車の試乗コーナー等もあり、多くの来場者で会場は盛況であった。

しかしながら、前回 2007 年訪問時には会場正面に大きな小間を構えていたラレーは今回姿が見られなかった。他国展示会でも言えることだが、もはや地元展示会に地元の有力ブランドが必ず出展するとは限らなくなった。サイクルヨーロッパはリヨンではなくロンドンを、オルベアはマドリードではなくリヨンを選ぶ等しており、増加傾向にある欧州自転車展について、地元こだわらず、より有益な場を求めて展示会を選定するようになっている。



サイクルヨーロッパ



スペシャライズド

(2) 根強い人気のクロモリフレーム

Condor 等を筆頭にクロモリフレームのクラシカルな装いのロードレーサー等の自転車を
出展しているところも数多く見られ、トラックレーサー等のシングルスピード車と共に英国
自転車市場の特徴である。また、付加価値の高い折りたたみ自転車も根強い人気があり、ア
レックス・モルトン、ブロンプトン及び Kans i 等の専門の出展者も見られた。

一方で電動アシスト自転車については、前回調査時より出展は増えているものの、同車種
の普及が進むオランダやドイツで見られるブランドの出展は殆ど無く、小規模な新興企業
の出展が多いように見受けられ、比較的安価な輸入車が主体であり本格的な普及はまだこれか
らといった印象を受けた。



クロモリ車が中心の Condor



各社で見られたクラシカルなスポーツ車

(3) 来年はバーミンガムへ移転

本展は 2002 年より開始され、会場を移転しながら開催しており現会場は 2007 年から利用してきた。同地はロンドン市内中心部の交通の要衝に位置し利便性の高い場所であるが、来年から開催場所をバーミンガムに移すことが既に決定している。主催者によると、新会場は出展者にとって好都合であり、来場者 35,000 名に達する見込みとの期待を述べている。しかし、我々のような英国事情や地理にさほど明るくない者でも、多くの自転車小売店や消費者を集めるためにはどちらで開催する方がよいのかは明白である。しばらくロンドンで発展を続けてきた同展が、来年どのような結果を収めるか注目される。

来年はバーミンガムの NEC ホールにて 2011 年 9 月 29 日～10 月 2 日まで開催予定である。

2. ロンドン市内自転車店調査

調査実施日：平成 22 年 10 月 8 日（金）

訪問地域：ロンドン市内中心部

調査店舗①

最初にロンドン市内 10 店舗と周辺市外 9 店舗を有す自転車小売専門チェーンの市内中心部の支店を訪問した。地下鉄駅から徒歩 5 分程に位置し、ロードレーサーは主要価格帯 500～1,000 ポンド（以下£と表記；65,000～130,000 円）ではスペシャライズド 10 台、トレック 10 台が展示されていた。£2,000（260,000 円）超の高額車では、トレック 3 台、ピナレロ 2 台が展示されており、シングルスピード車ではスペシャライズド等 5 台、価格帯は£500～700（65,000～91,000 円）、MTB は£1,000（130,000 円）超の前後サスペンション付車は 10 台、前サス付車は£500～700（65,000～91,000 円）でスペシャライズド 10 台、トレック 10 台であった。£500（65,000 円）以下の入門車はジャイアントが中心で、クロスバイクは£500～700（65,000～91,000 円）でトレック 15 台、£500（65,000 円）前後のジャイアント 10 台と充実している。一方、BMX や子供車の展示は少なく電動アシスト自転車の展示は無かった。なお、売り場には部品や付属品も充実していた。

調査店舗②

次に上記店舗①と同じチェーンの別支店を訪問した。取り扱いブランドはマリンとジャイアントが中心でロードレーサーは£500~1,000(65,000~130,000円)でジャイアント10台、マリン5台であった。£2,000(260,000円)超の高額車は、ウィリエール10台で、シングルスピード車はスペシャライズドを中心に、£500(65,000円)前後のマンガース2台を含め計10台が展示されていた。MTBは前後サス付で£2,000(260,000円)の高額車が5台、£700~1,000(91,000~130,000円)の価格帯が10台、合計15台であるのに対して、クロスバイクはマリン、ジャイアントが計40台も売り場に並び、それらの価格帯は£400~700(52,000~91,000円)となっていた。店舗1階は自転車売り場、2階が部品、付属品売り場となっており同じチェーンでも店舗①と取り扱いブランドにも明確な差異が見られた。



調査店舗①



調査店舗②

調査店舗③

ロンドン市内35店舗、市外7店舗の合計42店舗を有する小売店チェーン（調査店舗①と②とは別）店舗を続いて訪問した。クロスバイクは、価格帯£300~500(39,000~65,000円)のオリジナルブランドとトレックを中心に15台、価格帯£500~700(65,000~91,000円)はトレック5台であった。その他には、シングルスピード車5台とシティ車10台が展示されていた。一方、MTBの扱いは殆どなく、地下の売り場にはトレックの£500~700(65,000~91,000円)のロードレーサー10台も展示されていた。部品と付属品の扱いは少なかった。前述の2店舗に比べると売り場面積は小さく、取り扱う自転車の価格は£1,000(130,000円)以下のものが多かった。



調査店舗③



店内の様子

調査店舗④

店舗③の従業員に薦められ、急遽、シングルスピード車専門の小型店舗を訪問。1階は完成車10台程とフレームが数点。地下売り場にはフレームや部品を中心に陳列。日本ブランドの中古ピストフレームなども散見され、取り扱う部品も日本メーカーのハンドルバーやギャクランクが多く見られた。従業員は総じて若く、店内には音楽が大音量で鳴り響き、従来の自転車小売店とは異なる趣を感じさせる店舗であった。

調査店舗⑤

続いて、シティ車を中心に30台ほどの小型店舗を訪問した。店頭にはオランダなどでよく見られる運搬用自転車等も陳列されていた。店内にはブロンプトンの折りたたみ車5台とトレッキング車などが中心で、今まで見てきたスポーツ車が主体の小売店とは取り扱い品目が違い、ロンドンの消費者の自転車嗜好を知る上で興味深い店舗であった。



調査店舗④



調査店舗⑤

調査店舗⑥

更に店舗③と同チェーンの別支店を訪ねた。同店に比べ間口は狭いものの地階に広がる売り場面積ははるかに大きく、ロードレーサーは計40台で価格帯は£500~1,000(65,000~

130,000 円)、MTB は計 30 台、 $\text{£}1,000\sim 2,000$ (130,000 \sim 260,000 円)の高価格帯はスペシャライズド、中・低価格帯はスペシャライズドとオリジナルブランドが中心であった。シングルスピード車 10 台は、入口付近の目立つ場所に集中的に展示するなど、同車種への注力ぶりが伺えた。その他、BMX10 台とシティ車 10 台など、豊富な車種の自転車が並べられ、特にこの店舗は修理や整備を行う作業場が充実していた。

調査店舗⑦

最後は店舗①及び②と同じチェーン店の別店舗を訪ねた。1 階はウエア類の売り場のみで狭いが、地階に広々とした自転車売り場が備わっていた。ロードレーサーは 30 台、トレック、スペシャライズドを中心に高額品はウィリエールであった。クロスバイクは 40 台、トレックとマリンを中心に価格帯は $\text{£}400\sim 700$ (52,000 \sim 91,000 円)、MTB は 5 台程と少なく、ほかにはシティ車 10 台、さらに同店にはトレックの電動アシスト自転車が 1 台、 $\text{£}1,700$ (221,000 円)も展示されていた。なお、同店でもシングルスピード車が 10 台程並べられていた。



シングルスピード車に注力 (調査店舗⑥)



調査店舗⑦

まとめ

今回は同じチェーン店舗を訪ねた。市内では、より利便性の高いクロスバイクが好まれ、次いでロードレーサーとなり、MTB はその後が続くといった印象である。また、シングルスピード車が多くのお店で扱われ、更に同車種をメインに扱う店舗④のような新しいタイプの店舗がまだほかにもロンドン市内にあり、更にシングルスピード車の愛好者が集うカフェもあると聞いた。今回、街中でも度々同車種利用者を見かけ、ロンドンでのトラックレーサー等のシングルスピード車の人気の高さを改めて感じた。



街中で見られたシングルスピード車

以上
(デュッセルドルフ事務所)



この報告書は、競輪の補助金を受けて作成したものです。

